

連議確品民自



制度検討部会長に岸田氏

古賀会長「公共事業拡大と適正利益を」

自民党的「公共工事品質確保に関する議員連盟」（品確議連、会長・古賀誠選対委員長）は17日に総会を開き、麻生太郎内閣で入閣した金子一郎に義国土交通相の後任の制度検討部会長に岸田文雄衆院議員を選出した。品確議連の総会は6月9日以来。冒頭、古賀会長は「公共事業の運営を最大の努力を払っている。対応を積み上げる中で公共工事の品質を確保し、入札契約制度においていかに正當な利益を出していくかも」と述べた。

焦点であり、最大の努力を払っている。対応を續み上げる中で公共工事の品質を確保し、入札契約制度においていかに正常な利益を出していくかも法に基づく公共発注機関の入札契約制度実態調査の結果と、資金繰りの円滑化をはじめとする地域中小建設業者への支援制度を説明した後、議論にして、発注者の考え方をた。公共事業の量を増やしても、入札契約システムの改善が伴わなければ、建設業者に低価格受注を強いる結果になると想定する。

の対応を中心に各省庁の品質確保に向けた取り組みを紹介。同省の小澤敬市建設流通政策審議官が公共工事入札契約適正化法に基づく公共発注機関の入札契約制度実態調査の結果と、資金繰りの円滑化をはじめとする地域中小建設業者への支援制度を説明した後、議論に入った。質疑では、各議員から二度を説明した後、議論に进入了。適正価格による契約の重要性を強調する意見も出され、建設業従事者が普通に生活できる労務単価を求める声も上がった。公共事業の量を増やしても、入札契約システムの改善が伴わなければ、建設業者に低価格受注を強いる結果になると、発注者の考え方をして、発注者の考え方を整理してほしいという要

質疑では、各議員から、景気対策としての公共事業の必要性が相次ぎ指摘され、建設会社が公共工事を施工しても赤字にならないよう、物価変動に

「大事だ」とあいさつした。応じた発注単価の見直し
国交省の関係口宣房技 在求める意見も出され